資料集『ライブ！公共2024』を活用した「公共」の授業・考査研究例

主体的で自由な生き方に向けて（それに資する「公共」の授業と考査）

東京都立小山台高等学校　茶山 一郎（ちゃやま・いちろう）

－使用教材－
『ライブ！公共2024』

1 はじめに

「公共」、特に倫理や生き方、在り方に関する分野では、授業ばかりでなく考査も可能な限り生徒の主体性を生かしたものにしようとこれまでも取り組んできた。そして、今年度「公共」の考査問題では、本稿で紹介するような「自分の考えや企画、判断などを書く」問題を交えてみた。公民科の授業および考査を単なる評価のための道具とせず、無味乾燥でなく味のあるものにするため、議論や考察に参加できる、生徒相互が影響し合える工夫が必要であり、特に定期考査という「真剣勝負」の場でこそ、授業以上に工夫が求められると考える。

2 2024年１学期「公共」期末考査問題より

小山台高校では２学年に２単位で「公共」が置かれている。そこで１学期末考査では、以下の（9）のような試験問題を出題した。

（9）（世の常識に従って）世間並みの「幸せ」や安定を得ることと、大いなる自由を確保すること、好きなことを思い切りやっていくこと、対立しがちなこの両者について、自分が持つ３ポイント分を配分するとしたら、どうするか？　どのような生き方を選択するか？

選択肢（ア）～（エ）、さらに（オ）～（キ）まで入れて、この７つから、各自の願いや意識と最も合致するもの、（最も親近感を持てるもの、味方したくなるもの）を１つ選び、選んだ理由や補足説明を簡潔に記せ。

（ア）型どおりだが世間並みの「幸せ」３点、大いなる自由０点、
（イ）型どおりだが世間並みの「幸せ」２点、大いなる自由１点
（ウ）型どおりだが世間並みの「幸せ」１点、大いなる自由２点、
（エ）型どおりだが世間並みの「幸せ」０点、大いなる自由３点

さらに辞退・保留１ポイントを選択できるとして

（オ）辞退・保留1点、型どおりだが世間並みの「幸せ」２点、大いなる自由０点
（カ）辞退・保留1点、型どおりだが世間並みの「幸せ」１点、大いなる自由１点、
（キ）辞退・保留１点、型どおりだが世間並みの「幸せ」０点、大いなる自由２点

こうした設問に対し、基本的には、それぞれの生徒・受験者が書いたものが「正解」となる。テーマに沿っていなければ無得点、具体性に乏しければ減点であるが、いわばキルケゴールが言うような「主体性が真理である」ことを実感できる考査問題でありたいと願っている。全体としてはやはり共通テストを意識して知識・理解を問う問題が主となるが、生徒、受験者の魂に声が届くような、「倫理」「公共」の作問をしたいと願っている。

この（9）について 表１ にまとめた。この問題は、今年度考案し初めて出題したが、答えの指向は一つにはまとまらず、特に、クラスによって傾向が正反対であったことが興味深かった。すなわち、Ｘ組とＹ組はエが少なくアが多く（大いなる自由よりも世間並みの安定した幸せ重視）、一方、Ｗ組とＺ組はアが１～２名でエを選択した者が多かった（大いなる自由を重視）。この極端な差が何によるものか、例えば担任の指導と関係するのか、そして進路などにどう反映するか、などは、これから見守り、分析を続けたいと考えている。

そして、学習の次の段階として、問題に対し生徒がそれぞれ記したものを集計し、答案返却時にそれを配布、さらに生徒各自が親和性を感じた答えやよいと思った文を選ばせるなどの相互の検討検証を行っている。今回、生徒には 60 名ほどの答えを一覧表として示した。

コードネーム（雅号）を使用しているが、こうした検討検証で、「あの名前の人はいつもユニークなことを書く」といった生徒相互の認知度も高まっている。

表１ 設問（９）の解答集計

	W組	X組	Y組	Z組	合計	比率
ア	2	8	7.5	1	18.5	12.1%
イ	12	12	14	14.5	52.5	34.3%
ウ	6	8	9	8	31	20.3%
エ	11	3	3	9	26	17.0%
オ	1	0	0.5	3	4.5	2.9%
カ	5	6	5	3.5	19.5	12.7%
キ	0	1	0	0	1	0.7%
計	37	38	39	39	153	

生徒の解答・コメントの例

ア　型どおりの幸せでも日常の中の小さな幸せを見つけたり、温かく穏やかな気持ちで毎日過ごせるから。（佐倉）

エ　自分の人生は１度きりしかないので他人の考え、つまり世間の「幸せ」に合わせている時間はもったいないから。（信素）

※（　）内は、年度当初に決めさせたこの授業用のコードネームで、今年は雅号とした。こうして発表時の匿名性を確保しているが、このことは教育や医療の現場で名前非公表が広がっているだけに、今後も重要となろう。

3 「公共」の授業、中間考査では

「公共」の授業は、年度当初より教科書の配列に従い、社会、人間、倫理の分野から学習している。

内容としては、例えば、リンカン大統領の人生は不幸のオンパレードで重度の鬱（うつ）に苦しんでいたという話をスピルバーク監督の映画「リンカン」を交えながら紹介するなど、単元や語句をなぞっただけに終わらないように工夫している。特に、生徒が“食いついてくる”題材を用意することは欠かせない。

また、各自の雅号（コードネーム）の人気投票を行うなど、「検証」「交流」を通じて、どのようなことを書いたら周囲から注目を浴び、高く評価されるのかを考えさせたりもした。

そして、１学期中間考査の折には、考査問題表紙に次のことを「注意事項」として載せた。

第１回考査なので、この場で少しお話を…

「公共」をつくっていくのは自分たち

その基礎になるのは、まずはコミュニケーション能力

だから言語による表現の意欲、工夫や努力は重要

テストでも書かなければ始まらない！

★共感する力

つながっていけるか？

マイナーな存在でもいいところを見つけて評価する

★稀少性

ほかの人と重なりすぎないように！

意見は異見であるから価値あり

★「ナンバー１よりオンリー１」という歌詞もあった

以前は、「弱きを助け、強きをくじく現代社会」と標榜してきた。独占や独裁を止めるためにも、「弱者に肩入れする」文化は継承したいもの。

この「注意事項」やメッセージは、本稿のテーマに直結するものである。そして、そのうえで中間考査では以下の問題を出題した。

○各自のこの絵（ゴーギャンの「我々はどこへ行くのか」）に対する率直な感想を記せ。

有名な作品だからといって無理にほめなくてもよい。分からないことは分からないと答えればよい。

わざわざけなす必要もない。正直なところどうか、所有したいか？

○この高校の生徒たちが「早乙女踊り」（会津地方で田植え時に行われてきた伝統行事、芸能）をやってみて、どんなドラマが地域や家族であっただろうか、各自の想像を記せ（きっと何かあったはず！）。

○伝統文化の継承について、継承されなくてもよい、継承されなくてもしかたがないという立場に立って、ひと言意見を記せ。

○次に引用したのは、ロバート秋山が歌う「願い」の一節であるが、「体重６kg落としたい」というのは、（マズローが最も高次元の欲求とした）自己実現の欲望といえるだろうか？各自の意見を記せ。

「私は体重６kg落としたい　このところ 少し
身体が重い　だから無理せず６kg落としたい
願い　願い　願いはそれくらい
願い　願い　今はそれくらい
あとは　今週 髪切り行っときたい
来週バタバタしてるから
お盆に親に会っときたい
年末何かしらあるから…」

授業において、各自の願いを書く課題をやってきていて、その結果一覧を基に鑑賞、検証を行い、そのうえで中間考査にて予告しての出題であった。

なお、この体重６kg 落としたいという願いがマズローの欲求階層説（受験でも頻出）における最上位「自己実現の欲求」であるだろうか、という問題はこれまでにも

出題してきている。

○人生設計を立てるために収入に関連して、とりあえず、生涯賃金を３億円と想定して、その中で各自が、（ｇ）できれば使いたくない費用や抑えたいものと、（ｈ）できればこういうところに使いたい、出費できるようになりたい、という項目を、それぞれ具体的に答えよ。

さて、テストの問題に対しては、自身の意見はその考えではない、本音では否定的だとしても、親和性がある、味方をするなら、といった少し引いた立場としてならば書けるのではないか、と指導している。また、即答が難しい問題は、事前に予告し、考査当日に向けて、解答をあらかじめ考え、文章をある程度作って頭に入れてくることを準備勉強の在り方として勧めている。

そして、あるべき解答像は柔軟性を持つべきだが、対立する立場の双方の論拠を理解して意見を述べることが一つの到達点といえる。こうした「両方とも理解できている」ことが「一つの考え方に凝り固まる」よりも一般的に高く評価されやすい。また、今回の問題の「３点分をどう配分するか」というパターンは、今後もさまざまな局面で使えるように感じている。３－０にするか、あるいは２－１にするかといった違いも「公共」を学ぶ者の思考センスを刺激すると考えている。

4 みずからの意見や発案を表現できるようになるために

実は、こうした試験問題の考案、作成の一つの支えが、資料集『ライブ！公共 2024』（以下『ライブ！』）の特設ページの「思考実験」なのである。

さまざまな資料がある中で、この「思考実験」のページは、ここまで記してきた「考えて答える問題」に対応する力をつけるために広く活用可能である。

『ライブ！』の特色の一つとして、数種類の特設ページがある。「ニュースＱ＆Ａ」、「ゼミナール深く考えよう」「地図で見る社会」「論点整理」「変化で見る社会」「思考実験」と名付けられたそれらは、皆それぞれ魅力があるが、なかでも、生徒がみずからの考えを短い時間内にまとめて記述するために「思考実験」は貴重なページである。2024 年版では、「正しい判断ができるだろうか？～バス路線新設を考える～」、「気候変動への対策には何が必要？」、「さまざまな多数決の方法」、「核兵器の削減が進まないのはなぜ？」という４つのテーマが扱われている。

そして、活用できるのはテーマそのもの以上に、「思考実験」という題のとおり、思考や表現の過程に関する部分であり、例えば、「正しい判断ができるだろうか？～バス路線新設を考える～」では、「哲学者たちの智恵を借りることで解決の糸口が見つかるかもしれない」というアドバイスに始まり、**①論点を整理してみよう**、**②自分の意見をまとめよう**というワークが課せられており、こうしたプロセスは、学習の基本として生徒に身につけさせたい姿勢と重なっている。

そもそも、社会のさまざまな問題に対し、適切と思われる意見は一つに限定されず、真の正解があるとは限らない。そして、そうであるなら、まずは話し合うことこそ重要であり、民主主義の本質もそこにあると考えられる。さらには、解決困難な問題であればあるほど、議論を通じてお互いの人格理解も深まっていくことが期待できる。

5 「主体性が真理である」

「倫理」に登場する思想家の中でキルケゴールの人気は高い。ただし理解度はまちまちで、教える側としては、生徒自身が自分の答えを尊重できるようになるためにこの思想家を重視しているが、その願いが生徒全員に届いているとは限らない。

そこで、生徒には「『自分の考えていることが真理である』とキルケゴールが言った。そんなことを言えば当然周囲からバカにされるよね？でも、周囲からバカにされるくらい独創的な考え方ができたらそれはかっこよくないか？」と呼びかけている。勇気を出して意見を述べても、特にそれが自信のある見解で、自己の信念を示すものだとしても、周囲の無理解、否定的反応に押し切られ、心がくじけ、孤独の淵に追い込まれてしまうこともある。そういった経験の先駆者がキルケゴールであり、彼の存在意義は、そうした逆境で生きること、さらに「苦闘こそが生きた証、そこにこそ主体性あり！」と生徒たちにも示すことができるのではないだろうか。

筆者は、そのような過程からくる孤独への耐性を養うこと、そして外へ目を向け、周囲と話し合いができるようになること、さらに、自主的なコミュニティをつくることを「公共」の学習目的として受け止めている。

周囲に思ったように評価されない場合、例えば、自分の書いた答えが生徒間投票でほとんど票が入らなかった（支持が集まらなかった）場合、そうしたケースでは、「だからこそ（支持されなかったからこそ）いいのだ」とい

う励ましを欠かさず行っている。

こうした、個人の見解や否定されがちな少数意見を守る教育活動は、一人一人の自由な精神を育てることにつながると考えられる。「公共」の指導の根幹である日本国憲法の本質は自由と民主主義であり、その真髄たる13条個人の尊重という価値観と照らし合わせても、こうした指導姿勢こそ重要であろう。さらに「公共」で学ぶ「法の支配」も「立憲主義」も人権尊重を目的とするが、実際の高校生がその目的を直視できているかは微妙だとしても、人権および自由の尊重に目を向けた授業や考査でありたいと願っている。

さらに記せば、自由についての理解、そのための教育が学校現場において不足しがちではないだろうか？　自由自治を校訓としている学校、自由放任主義の教育現場も存在するが、総じてみれば、自由な精神を伸ばす教育への工夫がさらにあるべきと感じる。あるいは、学校における自由の在り方の議論も活発に行われるべきであろう。例えば、本来、自由はしっかりした規律のうえで保障されることが多く、あるいは、得てしまえばおしまいのものではなく進化し続けるもの、また、自己の権利や自由を主張するだけでなく他者の権利自由を尊重することに主眼があること等は、議論が行われ、生徒にも理解を望みたい事柄である。

自由な生き方に関する議論や考察を進め、特に自由な生き方を推奨することに関しては、冷静な対応が欠かせない。ともすれば教員は、考査問題に即して記せば、安定や世間並みの幸せを指向することを口にすることが多く、自分自身も初任の高校でクラスの生徒に「先生は僕たちをサラリーマンにしたいのか？！」と言われたことが胸に残るが（その本人は現在絵本作家）、一方的な指導にならないように努めなければならない。

それにしても、自分のやりたいことをやり続けられるかどうか、困難も大きい。だが、自由な生き方とは、職業や家族などの状態のことよりも精神の問題であろう。例えば、牢獄の中でも、貧困のさなかでも自由な心情を持ち続けることはありうる。経済的な格差拡大が進行する現代であっても、差別や格差を心の中まで踏み込ませず、伸びやかな自己や人間関係を保つこと、そして、偏見にとらわれず自分自身を見つめること、そうした「心のバリアフリー」もこうした姿勢にあるのだと思う。

考査でみずから考えたことを表現する、それをまとめて生徒どうしで検証し合うということ、その過程で、自分の書いた答えでよい（主体性が真理）と確認できれば何よりであり、そのために、生徒お互いの検証等では誠実な取り組みが欠かせないとも指導はしている。そして、相互の自由を尊重することに関しては、「公共」での他者危害の原則（J.S. ミル）の学習などを基にしている。

6 「公共」をつくる自由な精神とは？

大いなる自由を徹底的に求める者ばかりでなく、安定指向の者にも一度は考えてほしいのは、危険だが野生を求める自由論である。人間が長い年月かけて獲得してきたものも「自由」だが、安定への犠牲として人間が差し出してきたものも「自由」なのかもしれない。そして、よい子でいることや大人になることでつまらない人生へと押し込められるのでは、という危惧を生徒達は一度抱いてもよいのかもしれない。

みずからが自分の人生をデザインすべきであること、あるいは、「～でなければならない」から脱却して、自分の一生は自分でつくり、自分の思いのままに展開すること、それゆえ、たとえ大失敗しても自分の責任といったことを受け入れること、自由についてさまざまに考察することが「公共」の学習で欠かせない。そもそも学習は、他からの強制や強迫があって始まる場合が多いものだが、それでも生徒各自の自主的自立的な姿勢が一番の基礎になっている。それだけに、自由な精神を育むことによって「公共」の学びが本物になると考えている。

7 おわりに

今後に向けて、『ライブ！』は、「思考実験」のページがより充実すると活用の幅が広がると考える。その一方で、自分としては、生徒が書いたものを分析・編集する時間を確保したいと願っている。

定期考査の問題は、生徒の成績を付けるためだけにあるのではなく、生徒と教員、生徒相互のコミュニケーションの場として生かされるべきであろう。そして、真剣勝負があってこそ生かされてゆくものではないだろうか。

もとより試行錯誤しながらの取り組みだが、創造性のある授業、課題、考査問題から、創造性に満ちた生徒が育ち、自由な精神に基づく「公共」がつくられてゆくものと考えている。

３点を配分するタイプの問題、これを卒業時に再びやったら、あるいは35年後にやってみたら一体どのような結果になるか？

誰も知らない（ノーバディノウズ）、楽しみとはこういうことかもしれない。